

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104241
法人名	株式会社クロスサービス
事業所名	グループホーム むく 1階
所在地	愛媛県松山市西野町甲434-1
自己評価作成日	平成 28年 5月 25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者に対して、尊敬の念を言葉や関わり方で表すと同時に関わりの中で情報を知り、ご利用者がどうしたいのか職員で考えていながら、ご利用者が主体となるような生活する場となるよう、一人ひとりが持っている力を発揮しご自分で出来る事は、ご自分で行って頂いております。</p> <p>・自由な中にも、喜怒哀楽を共にし支えあいます。 ・豊かな自然の中で、季節を共に感じご本人の生活を大切にしていきます。 ・誰もがむくを身近に感じ、いつでも立ち寄りゆったり過ごせる家です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者一人ひとりについて私の姿と気持ちシートを作成し、内容をそれぞれ1枚にまとめて把握に取り組んでおり、半年毎に見直している。利用者が思いを返してくれる会として「西野やまびこ会」を毎月1回開き、外部評価項目等からテーマを選び、利用者から希望や意見を聞き取り、支援に反映している。意思表出の難しい方とは、ホワイトボードやカードを使いながらコミュニケーションをとっている。</p> <p>法事等の長時間の外出時、大きめのバッドを用意して説明を行い、利用者が安心して参加できるように支援するケースがある。同級生との関係が途絶えないよう職員が連絡を取っており、同窓会がある時には、本人が楽しく参加できるように、前持って状態を伝えてサポートをお願いしている。家族の誕生日に、本人がお祝いの電話をかけたり、プレゼントを渡したりできるよう支援している。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム むく

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 吉井 えり子

評価完了日 平成 28年 5月 25日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 年に1回、今の事業所に合った理念であるかミーティングで、話し合っています。 玄関先・フロアー・スタッフルームに掲示し、全職員が意識出来き又、ご利用者、外部の方にも、わかるようにしています。</p> <p>(外部評価) 5年前につくった理念「一人一人が地域の一員として自由にらせる”むく”でありたい」を掲げており、毎年、振り返り、見直しが必要かどうか話し合いを行なっている。職員全員が理念を意識して支援ができるように、ミーティングや申し送り時には、文言を捉えて話をしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 地域の催し物、婦人会サロンに、ご利用者と参加しています。 井出掃除や救命救急講習に職員が交代で参加している。 町内の方を、そうめん流し・餅つきなど、準備から参加して頂ける行事を取り入れ、地域とのつながりを大切にしています。 二か月に一度広報誌を作り、町内や、飲食店、公民館に掲示しています。</p> <p>(外部評価) 地域向けの「むく通信」は、少しずつ部数を増やしており、現在35部程度配布している。夕涼み会時には、地域の方にテント設営や竹製のそうめん流し器作りの協力を得ている。地域サロンでボランティアのフラダンスを観た利用者の言葉がきっかけとなり、事業所に定期的に来てもらうことになった。秋祭り時には、獅子舞の獅子が利用者の居室を回ってくれ、事業所では毎年おでんを振る舞っている。運営推進会議時には、地域の高齢者の現状について情報交換を行い、困ったことがあれば相談支援できることを呼びかけている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のなかで取り組んでいる事を報告しています。 日頃の事業所の様子を見て頂けるよう、地域の方を招く機会を作っています。ご家族の了解を得て、一人で歩かれていますご利用者を、見かけた時の対応を地域に発信しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に一度開催し、広報誌を見ながら日常の様子や、活動内容をわかりやすく報告しています。モデル事業にもなり、推進会議の中で、ご家族、地域の方とも事業所の取り組みについて評価やアドバイスをいただき話し合いの内容は、ミーティングで報告し、参加できなかった職員も意識して取り組めるようにしています。</p> <p>(外部評価) 地域の方、家族、利用者等が参加している。毎回テーマを決めて行っており、講師を招き「タクティールケア」等の勉強会も行った。地域の方からの「むくでしている紙芝居を地域のサロンでもしてほしい」という要望に応じて実施し、今後、継続することになった。事業所からは「公民館行事を1階で行ってもらえると、利用者が参加しやすい」ことを伝えて相談している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で事業所の取り組みや日頃の様子をお伝えし、アドバイスや情報をもらえるよう工夫をしています。事業所連絡会や講習会にも出来る限り参加し、行政の意向の把握に努めています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、地域包括支援センターの担当者からセンターの仕事について説明してもらった。今年、事業所が所在する地区が土砂災害警戒区域に指定されたため、市の地域防災課の担当者から説明を受け、地域と合同で土砂災害想定避難訓練を実施した。運営推進会議時、市の担当者から「土砂災害のマニュアル作りをしてはどうか」と提案があり、消防のアドバイスをもとに作るようになっていた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 交代で、法人内外の研修に参加し、身体拘束・虐待防止についての勉強会に参加しています。夜間を除いては、玄関の施錠は行っていません。(21時～6時) 何か対策が必要な事例が上がった時には、安易にご利用者の行動を制限してしまわないよう、ヒヤリハットや事故報告をあげる際、話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 法人内研修において、年2回は身体拘束の研修を行っており、新しい職員は優先的に参加できるようにしている。学んだ内容はミーティング等で報告し共有している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の研修会があり、順番に参加し、身体拘束について学んでいます。自事業所でも起こりうると考え、まずは目上の方に対する声のかけ方を考え、職員全員で意識して3ヵ月徹底し取り組みを行いました。小さな傷や内出血も申し送り、職員同士で声を掛けやすい環境作りに努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見を利用されている方が3名おられ(事業所では5名)、司法書士の方とやり取りをする事が多い。個々の問題に対して、相談ややり取りする機会をもちながら、解決に向けて話合っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、事前にご本人に面会・見学を行い現在の状況を、確認しています。出来る限りご本人とご家族、事業所から2名の四者で契約の説明を行っています。項目の説明について事業所ができない事も、事例を交え解りやすく説明し、ご家族の納得が得られるように努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や行事の際には、何か質問やご意見がないか問いかけています。率直な意見が頂けるよう、日頃からの職員との関係を作れるように努めています。年に1度ご家族アンケートを送らせて頂き、集計結果を報告し、今後の改善や繁栄にいかしています。 (外部評価) 今年4月には、利用者、家族、職員あわせて約30名が参加して、温泉施設で家族会を行った。敬老会やもちつき、クリスマス会等の行事や外出も案内し、年間通して家族が利用者や事業所と関わる機会を作っている。運営上の連絡事項が発生した場合は、まず電話で家族に報告し同意を得て、その後、機会を捉えて説明を行っている。居間の本棚にはアルバムを置いており、家族が手にとって見たり、気に入った写真を持ち帰ったりできるようにしている。	外部評価に際しての家族アンケート結果等を参考にして、家族への報告等について工夫してはどうだろうか。具体的に知ってもらうことから、さらに意見や要望を引き出してほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングを利用して、現在の法人の運営について地域課課長や管理者か報告を行い、職員一人一人が確認をしたり、意見を言ったり出来るような環境作りに努めています。また、人事考課(年に4回)とOJT(年に4回)も活用しながら一人一人の意見の反映に努めています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月のミーティングは、全利用者の情報を共有できるように両ユニット合同で行っている。欠席した職員は、会議録で内容を確認する仕組みを作っている。メンタルヘルス委員の管理者は、個人一覧表で職員の毎日の体調を把握し、気になる症状や様子の変化があれば、個別に話を聞くようにしている。法人内でマラソンやバドミントン等の「部活動」を作り、系列事業所の職員との交流の機会がある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>キャリアパスの仕組みをしっかりと明文化する事で、職員一人一人が自分がどの役割で働いているのかが確認できるようにしています。人事考課の面談を活用して個々の目標を作成すると共に、メンタルヘルス委員(管理者)が日頃のストレスチェックと労働環境の確認に努めています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>人事考課のタイミングで一人一人の職員が年間の目標を作成しています。その目標に向かって日々のトレーニングをリーダー管理者と行い、三ヶ月に一回OJTシートで確認を行っています。個々の研修計画に基づき法人の研修、事業所の研修、外部研修に参加しています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所連絡会や地域密着型サービス協会の研修に積極的に参加しております。 また、同法人の地域密着型でグローアップ委員会という勉強会を行ったり、訪問看護師との医療連携会議を行いご利用者の生活の質を向上させるための取り組みを行っています。 管理者・リーダー会にて他の事業所との情報交換を行っています。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用開始前にご本人やご家族との面会を行い、困っている事等ニーズの確認を行っています。ご利用者にも当事業所の見学に来て頂き現在の不安な事や要望についてお聞きした上で入居の手続きに移れるよう配慮しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご契約時に、困っている事をまずお聞きするようにしています。利用開始後は、面会時に困っている事や不安な事をお聞きするように努め、家族構成や子供さんの状況や住んでいる所など、失礼がない範囲で情報交換が出来たと思います。お互いの状況を知る事で、徐々に困っている事や不安な事が明確になり解決に向かっていていると思います。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の訴えとご家族の訴えをまずお聞きするようにしています。困りごとに関して、多くあるようであれば、まずは何から支援が必要であるかをスタッフ間で話し合っています。医療に関する相談ことは主治医や訪問看護師とも相談しながら解決に向かって取り組んでいます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々のご利用者の状態を把握し、出来る事はあえて手を出さず、安全に行なえるよう見守り、台所仕事や家事を一緒に行っています。また、ご利用者同士の関係も大切に、お互いが助け合えるよう、さりげない支援となるよう心掛けています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 出来る限りプラン作成に関わって頂き、意向や思いをお聞きしています。日頃の様子がわかりやすい様に毎月の経過報告や、むく便りを年に4回お渡ししている。ご家族が来られた際には、家族で過ごせる時間も大切に、三世代で温泉につかれたり、ご夫婦や親子で散歩される場面がありました。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族から馴染みの場所や人についてお聞きしている。墓参りや、自宅近くの美容室に行き世間話をしたり、ご近所の方と会える時間を作っています。馴染みの方への年賀状や電話でのやり取りも行い面会や行事の参加などのお誘いをしています。 (外部評価) 法事等の長時間の外出時、大きめのパッドを用意して説明を行い、利用者が安心して参加できるよう支援するケースがある。同級生との関係が途絶えないよう職員が連絡を取っており、同窓会がある時には、本人が楽しく参加できるように、前持って状態を伝えてサポートをお願いしている。家族の誕生日に、本人がお祝いの電話をかけたり、プレゼントを渡したりできるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日頃の様子を観察し、申し送りやミーティングなどで情報共有しています。間に入り会話の橋渡しを行ったり、一緒に家事や買い物に行き関係を築ける様支援しています。 1階と2階の行き来も職員と行き、食事をしたり、コーヒーを飲みながら話をし、関係が広がるよう工夫しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続し行事にお誘いし、参加して頂いたご家族もいます。退所された方のご家族と、訪問や電話でやり取りをし相談を受けたり、在籍中のケアの方法などお伝えしました。お誕生日や母の日に会いに行きお話をすることもしています。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) まずは、ご本人に聞いたり選択してもらえようように努めています。意向の確認が困難な場合は、入居以前の生活をご家族にお聞きしたり、ご本人の表情を元に思いを知ろうとミーティング等で話し合いを行って、意向の把握に努めています。 (外部評価) 利用者一人ひとりについて私の姿と気持ちシートを作成し、内容をそれぞれ1枚にまとめて把握に取り組んでおり、半年毎に見直している。利用者が思いを返してくれる会として「西野やまびこ会」を毎月1回開き、外部評価項目等からテーマを選び、利用者から希望や意見を聞き取り支援に反映している。意思表示の難しい方とは、ホワイトボードやカードを使いながらコミュニケーションをとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時に、ご本人の話しやご家族の情報を元に、これまでの暮らしについてフェイスシートにまとめるようにしています。その後も、都度に趣味嗜好などこれまでの生活を会話などから情報収集しシートを使ってスタッフ間で共有できるよう努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録は、個人別記録に毎時間記録しており、特に健康に関する記録は別の用紙(バイタル表)を用いている。センター方式のアセスメントや日頃の申し送りを使って心身の状態や有する力の把握に努めています。ウィークリー目標を作成し、それを朝と夕方の申し送りで振り返ることで日々の確認を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご家族に、現状報告を経過シートを使って行っています(担当者以外も現状がお伝え出来るよう)。報告の際に、ご家族の意向が聞けるよう努め、ミーティング中のカンファレンスやグロアアップ(ケアの質を考える)委員会の取り組みにも反映させながら介護計画の作成に活かしています。</p> <p>(外部評価) 家族には、毎月、「経過シート」を渡して、利用者の暮らしやケアについての要望を聞き、介護計画に反映している。計画に沿って本人のできることや必要な支援を見極め、ウィークリー目標を立て日々支援に取り組んでいる。日々の個人記録から目標の支援内容をピックアップして、毎日記述式でモニタリングを行い、申し送りノートや朝夕の申し送りで情報共有している。計画は3ヶ月毎に見直し、状態変化時はその都度見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録はご利用者の様子や言葉を観察し、その背景・原因、ご利用者の思い・支援してほしい事を考え、支援した内容を毎時間個別に記入しています。気づきや特記事項は申し送りや、申し送りノートに記入し情報共有している。ケアの工夫や提案もこの場である事が多い。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ニーズに対しミーティングカンファレンスで職員の話し合いを行いまた他職種と医療連携会議で意見交換を行っています。福祉用具の活用や、地域の傾聴ボランティア活用に取り組んでいます。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域のスーパーと一緒に買い物に行き食材を買っている。自分の嗜好品を買われる方もあり、ご自分で支払いをしています。訪問のパン屋やヤクルト販売では出来るだけご自分で選んで頂いており、回覧板の回しや、行事のお誘いなどもご利用者と一緒におこなっています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 契約時に、ご家族による外来受診か往診医を選択して頂いています。事業所の指定はなく、ご家族の希望に合わせているが、立地条件の問題で往診出来る医師が限られているのが現状です。その為、必ずご本人とご家族には医療についての希望をその都度、直接医師に伝えてもらうように調整を行っています。	
			(外部評価) 入居前から幻聴や不眠のある方がいるが、外出や役割を見つける等、日中の過ごし方を検討しており、さらに、主治医に相談しながら必要に応じて薬剤を処方してもらい、総合的な支援を行っている。減薬に取り組み、歩行状態が改善した事例がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ファックスやメール・電話で情報交換を行ったりアドバイスをもらっている。訪問時にはバイタル表をもとに情報や気づきを伝え、協力をして看護がスムーズに行なえるようにしています。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は、職員が時々面会に行き状況を確認したり、お話しを聞く事で不安軽減や、ニーズの確認に努めています。入院先の医師・医療連携室とも情報交換を行い、退院の時期を確認しています。退院前のカンファレンスを毎回行いホームへの復帰後の環境整備や課題についてご家族や主治医、訪問看護師と話し合いを持っています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時や家族会のタイミングで事前に重度化についての事業所の出来る事と出来ない事の説明を行っています。その上で、ケースに応じて、ご本人ご家族と医療者を交えた話し合いを行い、ご希望に沿った対応を心掛けています。重度化のステージによってご本人もご家族も気持ちの変化する事を踏まえ、話し合いは一度に止まらず、状況の変化に合わせて都度確認するようにしています。	
			(外部評価) 昨年6月に1名の利用者の看取りを支援した。状態変化時、親族が集まり主治医から説明を受け、希望を聞きながらその後の方針について話し合った。入浴は、往診のある日で状態が良い時に湯船で温もれるよう支援した。お好きな「よさこい節」を流したり、利用者職員と一緒に歌ったり、声をかける等、皆で関わりながら支援した。他利用者は「頑張ったね」「楽におなりよ」と声かけし、親族からは「ここだから一緒に最期を過ごすことができたんですね」と感謝の言葉があった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の研修に年に一度、順番に参加しています。AEDを設置しており、職員は講習を受けています。急変対応についてのマニュアルを電話上に掲示しておりいつでも確認出来るようにしています。感染や誤嚥・やけど・行方不明など色々な場面を想定し対応方法をミーティングで勉強会を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防を呼んでの避難訓練を、夜間想定も取入れ年に2回行っています。なるべく全職員が参加出来るように予定を立てています。避難手順は、見やすいように通報機器の近くに掲示しています。土砂災害を想定した訓練では、地域にも呼びかけ、回覧板で回して頂き、二階からの避難や介助の仕方など取り入れ合同で行いました。	
			(外部評価) 今年5月には、地域の清掃活動後、そのまま事業所に移動してもらい、消防署立ち会いのもと地域の方、利用者等約30名で、土砂災害想定避難訓練を実施した。地域の方には避難後の利用者の見守り役をしてもらった。消防の指導を受けながら土のう作りや積み方を実際に行った。災害時の系列事業所との協力体制の仕組みを作った。玄関協に災害グッズ等を準備しており、居間には防災頭巾が用意されていた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 外部評価内の取り組みでも取り上げ、事業所の現状を振り返り、人権を尊重した声掛けを意識して職員全員で行っていき、取り組みをグローアップ委員会でも報告を行いました。居室入室時には、声を掛けやノックをするように気をつけています。	
			(外部評価) 「利用者が力を発揮できる場面を多く作る」ことを目標達成計画に挙げ、「利用者ができることを選択できるような声かけ」について職員全員が意識し、3ヶ月間取り組んだ。声かけは「～しましょう」から「～しませんか」に替えて、利用者の活躍の場や役割が増えたようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で職員がご利用者の好みや思いを言って頂けるような話をしたり、受け答えが出来難い方には選択肢を狭める(どちらかにする等)事で、選んでもらったり表情から職員が判断する等して出来るだけご本人の希望が表現できる事を支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 外出の希望や入浴の希望に対しても、出来るだけ柔軟にご利用者の希望に添えるよう対応をしています。 例えば、希望があった際に他者のケアと重なった場合も時間をずらす事をご本人に了承してもらったり場合によっては、日をずらしたり代替のケアを提案するなどして対応をする事もあります。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) どの服にするか選んで頂くようにしています。洋服をご自分で買い物に行かれる方もおられます。帽子も季節に合わせて色などを選んでもらい、おしゃれが楽しめるような声掛けを大切にしています。日々の整容と、爪切りや耳掃除といった不定期ではあるが小まめな対応が必要なケアについて気をつけています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者と一緒に、その日の気候や季節などの日常会話の延長で献立を考えています。スタッフは、冷蔵庫にある材料を確認したり同じメニューが続いていないか等を見てご利用者と一緒にごしらえや味見、片付けを行っています。 食卓に調味料などを置き自由に使えるようにしている。	
			(外部評価) 事業所の畑で収穫した旬の野菜や、散歩時に摘んだ土筆やワラビ等の季節感を感じる食材が献立に上ることもあり、会話のきっかけにもなっている。季節行事で作る巻きずしやおせち料理は、利用者が腕をふるう機会でもあり、職員も教わりながら一緒に作っている。砥部焼の絵付けをした湯のみや専用の急須で、好みの加減の日本茶を入れて飲む方がいる。目が見えにくい利用者には残量が分かり易い色の濃いお茶碗、マヒのある方には浅めですくい易い器を使用している。重度の利用者は、食材の確認や味見することが役割になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、個々のバイタル表に水分・食事摂取量を記入し、水分量が少ない方には、飲み物を好みの物に変えたり、ゼリー状にするなどの工夫を行っています。 見えにくい方の器や、滑りにくい箸など、その方の状態に合った物を使用しています。早く起きられた方には希望の時間にお出ししています。夜食にパンやお菓子を食べられる方もいます。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と就寝前に、歯磨きや義歯の手入れが出来るよう声掛けを行っています。出来ないところは職員がサポートし、口腔内に残留物が無いよう確認を行っています。口腔内に異常が見つかった場合にはご家族や、訪問歯科医に相談し、治療方法を考えていきます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の排泄をチェック表を元に把握します。訴えや表情から排泄のタイミングを捉えるように努め、なるべくご自分から発信してもらえぬ事を大切にしています。 ご自分でおトイレまで行ける方や、ズボンの上げ下ろしなど、出来るところはしっかりとやって頂き、出来ない部分を支援するように心掛けています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各ユニットのトイレは赤い扉が目印になっている。日中は車いすの方も二人介助でトイレで排泄できるよう支援している。意思表示が難しい方は、手の動きや表情等個々のサインを把握し、トイレ誘導して支援している。利用者の状態によっては、職員が利用者の前でトイレに座って見せてから誘導する場合もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>バイタル表に形状や量がわかりやすいように記入を行い、一日の予定表に何日排泄がないのか記入しており、職員が把握できるようにしている。食事に海藻類やヨーグルトなどお通じによさそうな食物を取り入れるようにしています。また腹部をホットタオルで暖めたり、腹部マッサージや運動を取り入れています。訪問看護師に腸の動きを診て頂く事もあります。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者が入浴したいタイミングを声掛けで聞き取っています。実際の入浴では、入浴剤を使用したり温度をご利用者の好みに合わせたり途中でゆっくりと会話をする事で楽しい時間が過ごせる様配慮しております。家族風呂も利用し、広いお風呂でゆっくりと過ごす頂く事もあります。春には、職員と温泉に入られた方もいます。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴への意欲に差があるが、職員は利用者の動きを見ながら小まめに声かけて、無理強いせず個々のタイミングで入浴できるよう支援している。又、「浴室に行くのが面倒なのか」「脱衣が面倒なのか」「シャワー浴がいいのか」等、個々の気持ちに寄り添いながら探り、支援している。家族風呂のある温泉や車いすで利用できる宿泊施設の温泉で、職員と一緒に楽しめるよう支援しているケースがある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人の状態や希望によって、休息のタイミングや場所を考えています(ソファなのか居室なのかなど)。また、居室でお休みする際は、明りや温度に気を配り、カーテンや空調の調整を行っています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療ノートを作成し、往診や受診の記録を取っています。服薬に関しても変更があれば、副作用や用法の注意について医師からの説明を受けて記録に残し、職員間の申し送りに努めています。服薬の変更後は、ご本人の様子やバイタルサインに注意し、異常があれば医師や看護師に相談を行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者一人一人の趣味や生活スタイルをお聞きしながら、読書や歌、などの楽しみ事が行えるように提案をしています。また、家事やお買いものといった役割を持った生活も送れるようにやまびこ会(意見交換会)や日々の申し送りで目標(ウィークリープラン)を確認してケアを行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度のやまびこ会でいきたい所など意見を聞き、ご利用者の状態(気分)に合わせて行っている。又、お買い物やヘアカットにお誘いし、ご希望に沿って外出が出来るように提案を行っています。誕生日やご家族が面会に来られた時などに、ご家族との外食や馴染みの場所へ行けるよう提案などの支援をしています。	
			(外部評価) 町内の盆踊り・花火大会では、家族の協力を得て数名の利用者が外出した。調査訪問日の午後には、庭先で音楽をかけ皆で歌ったり、ティータイムを楽しめるよう支援していた。重度な方も車いすです散歩したり日光浴する等して外気にふれ、日常的に気分転換できるよう支援している。一人で散歩したい利用者には「行ってらっしゃい」と見送り、遠目に様子を見守っており、周辺の田畑で農作業している顔なじみの方の協力を得て、見かけたら連絡してもらえよう願っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) なるべくご本人に支払いをして頂けるよう支援しています。ご利用者の状態によって必要があれば、スタッフが残金を記録したり、スタッフがお預かりして管理させて頂く方もおられます。むくでのヤクルト・訪問パン販売で商品を選んで頂ける場面も作っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から贈り物が届いた時やご家族の誕生日がわかっている方は、電話でお礼を言ったり、お手紙をお出ししたりする事を支援しています。定期的に、事業所新聞をお送りします。また、ご本人のご希望を聞いて年賀ハガキを一緒に書き、ご家族やお友達にお出しするお手伝いをする事もあります。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用スペースを一緒に掃除したり、お庭の花を生けたりしています。季節の飾り物(節分や七夕、クリスマス、お正月など)を一緒に作ることもあります。入口の絵をご近所の方が提供して下さいました。 日頃スタッフは、ご利用者の様子を見て部屋の明かりや空調、テレビや音楽の音量を調整するようにしています。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関脇には、ビワの木や灯籠、庭石を施し和の趣がある。ビワの季節には収穫して楽しんでいる。玄関は開放しており、利用者は自由に庭の花や畑の世話をしている。生け花の得意な利用者は、職員と一緒に共用空間の各所に紫陽花を生けていた。夜間に鏡をみると不穏になる方がいるため、居間の洗面台の鏡にはカーテンを付けている。居間のカレンダーには、皆で見て確認できるよう、外出や行事予定を記入している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者同士が談笑が出来たり、時にはリラックス出来るようなソファの配置に心掛けています。 食卓のテーブルも、気の合うご利用者同士と一緒に食事をしながら会話が出来るような座席をミーティングなどで話し合っ工夫をしています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居前に使っていた家具を引き続き使ってもらったり、ご家族や思い出の物や写真、手紙を居室に飾ったりされています。 また、なるべく生活がしやすいようなベッドや椅子の位置を検討し、必要があれば再検討を行っています。出来るだけ庭先縁台でのお茶も行い季節を感じて頂く事も大切にしています。</p> <p>(外部評価) 入り口の表札は、利用者によって名前を大きく書いたり、目線に数ヶ所取り付ける等、本人が確認しやすいよう工夫している。自宅からベッドや時間が見やすい大きなデジタル時計、仏壇を持ち込んでいる方がいる。好きな球団のグッズを飾り、テレビの野球中継を楽しむ方がいる。行楽地の新聞記事を切り抜き、壁に貼って外出を楽しみにしている方がいた。家族と一緒に衣替えする方もいる。畳を敷いている居室の方には、布団の上げ下ろしが出来るよう職員がサポートしている。居室の入り口には、避難時確認用の名札を掛けていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用開始初期の段階で居室からおトイレまでの行き来をご自分で行けるように説明をしています(お部屋に表札したり、トイレのドアのみ赤色になっています)。ほとんどの、ご利用者はフロアから居室、おトイレまでをご自分で歩いたり車椅子を使ったり歩行器を使う事で移動が出来ます。スタッフは、出来るだけ手を出さず、出来ない所だけお手伝いをするように心掛けています。</p>	